

猛暑のひと夏がようやく終わり、読書に身が入る過ごしやすい気候になってまいりました。各地で学会や研究会が開催される季節、準備にお忙しい会員の方も多々いらっしゃるのではないのでしょうか。昨年から開始した *Dubliners* 研究会もこの10月で早6回を数えます。今号のコラムにて進行状況をお伝えいたします。

Topics

- ジョイス論書誌情報のお願ひ
- *Joycean Japan* 第22号 投稿のご案内
- 第23回研究大会・発表者募集のお知らせ
- 常任委員（2010年6月19日～）について
- コラム：*Dubliners* 研究会報告（小田井勝彦）
- 書誌情報記載用紙（別紙）

ジョイス論 書誌情報のお願ひ

- ◆ 本年6月の総会にてお知らせしました、書誌情報に関するお願ひです。
- ◆ 本会誌 *Joycean Japan* は、かつて日本のジョイス研究論文の書誌を掲載して参りましたが、2004年発行のNo. 15に、「1951年～1960年 ジェイムズ・ジョイス研究書誌」を掲載して後は、長らくこれをおこなっておりませんでした。最新書誌は、2003年発行のNo. 14において、2003年3月までの書誌を掲載したところで尽きております。
- ◆ 何より事務局・編集員は限られた人員で情報を収集せねばならないため、ネット検索等の労力を要し、場合によっては、二次的な書誌文献からの情報によるため正確さに悖る、という危険も生じます。
- ◆ つきましては、会員の皆様に、お書きになった論文・著書の情報をご提示頂きたく、お願ひ申し上げます。次号の *Joycean Japan*, No. 22にて、「ジェイムズ・ジョイス研究書誌」の掲載を再開致したく存じます。
- ◆ 2003年4月以降、2010年度（2011年3月までの発行予定を含む）までの論文・著書の情報を、別紙の様式にご記入の上、ご返送ください。
- ◆ また、*Joycean Japan* のバックナンバーにこれまで掲載されていなかったものでしたら、2003

年 3 月以前の情報でも構いません。これについても、数量次第で、No. 22 に掲載するか、あるいは No. 23 以降の掲載を、検討させていただきます。

- ◆ 基本的には、会員御自身の著作物のみで結構ですが、たとえば会員以外のお知り合いや、教
子の院生等の著作物もお書き加え頂ければ幸いです。
- ◆ 締め切りは、*Joycean Japan*, No. 22 の編集作業の関係上、2011 年 2 月 28 日とさせていただきます。
同封の封筒で御返送ください。

Joycean Japan 第 22 号 投稿のご案内

例年通り、査読対象論文の投稿締切は 11 月 30 日(消印有効)となっております。第 22 回大会で口頭発表された方々はもちろんのことながら、それ以外の会員からの投稿も受け付けております。

論文投稿規程

1. 投稿資格は、会費を納入している会員が有する。
2. 字数・書式。日本語の場合、14,000 字以内(タイトル・註などを含む)。英語の場合、半角で 28,000 ストローク以内(タイトル・註などを含む)。双方とも、半角で 2,400 ストローク以内の英文サマリーを添付のこと。
書式は、『MLA 英語論文の手引き』(北星堂)の最新版に基づくことを原則とする。
3. 11 月末日までに、事務局に郵送すること(当日消印有効)。添付ファイルによる提出は認めない。なお、デジタル情報(フロッピーなど)を同時に提出する必要はないが、採用された論文については、後日提出が求められる。
4. 著者校正は初校のみとする。

なお、第 22 回大会の総会において、「*Joycean Japan* 掲載物の著作権は、日本ジェイムズ・ジョイス協会に属する」ことが決定されました。(学協会著作権ポリシーについては、<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>をご覧ください。このサイトにおいて、学会名「日本ジェイムズ・ジョイス協会」、もしくは誌名「*Joycean Japan*」を入力することで、本協会の著作権ポリシーを閲覧できます。)

また、第 22 回大会の「シンポジウム」で発表されたみなさんの報告原稿は、原則 12 月 31 日(消印有効)を締め切りとさせていただきます。それぞれのオーガナイザーには、原稿の取り纏めをお願いいたします。(ご質問は事務局までお願いします。)

第23回 日本ジェイムズ・ジョイス協会 研究大会

研究発表者募集のお知らせ

第23回研究大会は、2011年6月18日（土曜）、京都で行われます。

会場・プログラムの詳細は4月のNewsletterでお知らせしますが、(1) 研究発表、(2) シンポジウム I、(3) シンポジウム II、となる予定です。

ついては、(1) の研究発表者を募集いたします。

発表を希望される会員は、800 字程度の発表要旨を添付のうえ、12 月末日までに事務局へお送りください。E-mail でのお申込みも受け付けております。

発表時間は20～25分、質疑応答は10～15分程度を予定しております。

お送り頂いた発表要旨は、2011年1月上旬に行われる常任委員会での査読を経て、採用が決定されます。(司会者もこの常任委員会で確定します。) 要旨査読通過者は、5月中に、司会者宛て発表原稿をお送りください。

応募者の方への詳細は追って御連絡いたします。

なお、京都のホテル・宿泊情報は、今後ウェブページに掲載の予定です。

<http://www.joycesocietyjapan.com/>

新常任委員（2010年6月19日～）についてのお知らせ

いささか遅くなりましたが、これが総会后最初のNewsletterとなりますので、お知らせいたします。今年2010年6月19日の総会にて、常任委員会の新メンバー9名が決定されました。任期は2年となります。

どうぞよろしくお願いいたします。

常任委員： 浅井 学、吉川 信、清水 重夫、須川 いずみ、道木 一弘、

戸田 勉、夏目 博明、結城 英雄、若島 正（以上 50音順）

なお、会長、事務長、事務局員については留任となりました。会員の皆様には、引き続きよろしく御協力のほど、お願い申し上げます。

会長： 清水 重夫

事務局長： 吉川 信

事務局員： 浅井 学、須川 いずみ、戸田 勉、小田井 勝彦、桃尾 美佳

Dubliners 研究会活動報告

小田井 勝彦

近年のジョイス研究の主流は、*Ulysses* そして *Finnegans Wake* へと移行しているように感じられますが、Margot Norris の *Suspicious Readings of Joyce's Dubliners* (2003) や Gerald Doherty の *Dubliners' Dozen: The Game Narrators Play* (2004) など *Dubliners* のみを扱った著書も出版されており、著書の一部で扱っているものや論文などを含めると枚挙に遑がないほど多くの論考が、今世紀に入ってから発表されています。*Ulysses* や *Finnegans Wake* の研究を経た後で、再び原点に戻ろうという気運も窺えます。

そのような気運のもと、昨年 10 月より事務局主催で *Dubliners* 研究会が始まりました。出席者は毎回 10 人から 15 人ほどで、全国各地から新幹線や飛行機を使って参加するメンバーもおり、熱意に溢れた研究会となっています。

現在はほぼ 2 カ月に 1 回のペースで開催しており、各回 1 作品ずつ議論を重ねています。これまでに 6 回、“Araby”、“An Encounter”、“Eveline”、“After the race”、“Two Gallants”、“The Boarding House” の順で研究会が行われました。

これまでの先行研究をふまえたうえで何が言えるだろうかということを検討していくのがこの研究会の趣旨で、毎回担当者が適当なところまで朗読した後で話題を提起し、参加者それぞれが自分の読んできた研究書や論文の内容を紹介しながら、議論を進めていきます。10 月 30 日の会 (“The Boarding House”) では、「Polly は性的な関係を持っただけか、それとも妊娠しているのか」など、熱く討論が交わされました。

Dubliners 研究会は土曜日 14:30~18:00、会場は主に専修大学サテライトキャンパス（小田急線向ヶ丘遊園駅下車 1 分）で行なわれています。興味のある方は、事務局までご連絡下さい。

~~~~~

### 事務局情報

住所変更をされて  
この Newsletter が  
転送で届いた方  
は、お手数ですが  
右記事務局宛にお  
知らせください。  
(e-mail 可)

日本ジェイムズ・ジョイス協会 事務局

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

群馬大学教育学部

吉川信研究室内

